



東アジア販路開拓レポート

富裕層人口がASEANでトップのマレーシア 5月度ツアー「クアラルンプール訪問」

5月度の海外販路開拓ツアーは、1ヵ月間に「クアラルンプール」「上海」「ホーチミン・ハノイ」と3ヵ所訪問した。今号では、5月12日、13日に催行したマレーシアの「クアラルンプール」編をレポートする。

ジェトロ・クアラルンプールのブリーフィング

私は今回がKL初訪問のため、5月12日（金）10時より、ジェトロ・クアラルンプール（KL）のシニアアドバイザー・菅原等氏よりブリーフィングを受けた。主なテーマは、「マレーシアにおける日本食市場の概況と新商流について」。

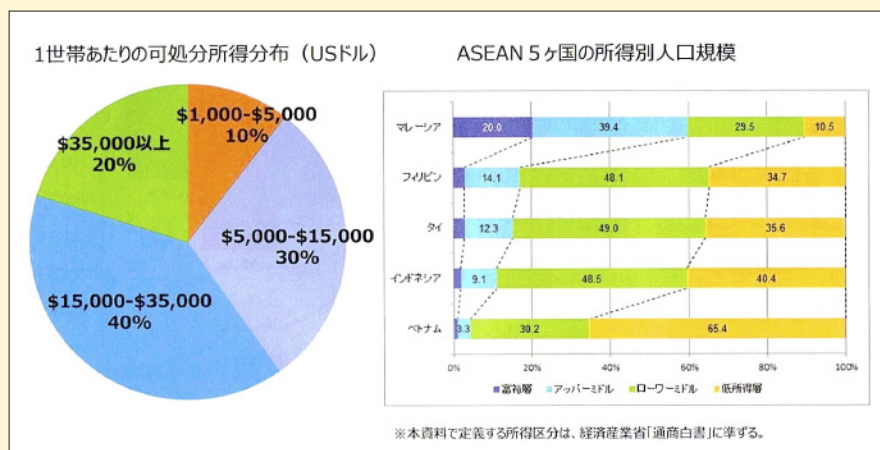
マレーシアの人口はおよそ3,100万人（2015年）で、マレー系（61%）、華人系（21%）、インド系（6.1%）の3つの主要民族で構成されている。傾向としてはマレー系の人口増加率が高いが、KL、ペナン、ジョホールの主要3都市では、華人系が30%以上を占めているところもあるという。

30歳未満が1,686万人おり、消費を支える15歳～54歳までの各世代は増加している。この世代の特徴は、①高学歴世代、②日本食を好んで食べる、③日本の情報をSNSを使って得ている、④日本に憧れ日本をよく訪れる（2013年7月のVISA免除が契機）、⑤日本食、日本製品に触れる機会が多い世代、⑥車は必需品（働き始めたらほとんどが自動車通勤）、⑦マレーシア人の自動車保有率は93%と世界で3番目に高い（複数の車を保有している世帯別保有率は世界で最も高い）一となっている。

マレーシア政府は、2020年の先進国入りを目指し、1人当たりのGNI（国民総所得）を現在の10,570ドルから15,000ドルにするビジョンを掲げている。マレーシアの1人当たりのGNIは、2000年あたりから急伸して中国やタイを上回っており、近年は、再び進出市場先として注目を集めている。

事実、マレーシアは、年間可処分所得が35,000ドルを超える富裕層の人口がASEAN5ヵ国の中で最も高い。この富裕層は609万人（2015年）おり、シンガポールの総人口を上回っている。また、年間世帯可処分所得が15,000～35,000ドル以下のアッパーミドル層の割合が39.4%と多く、この2つの層が全体の60%を占めている（図1参照）。消費意欲の高いこの中・高所得者層のボリュームの厚いことが、マレーシア市場の大きな特徴だろう。

図1 増加を続けるマレーシアの富裕層



出典：Euromonitor Internationalよりジェトロ作成